



いたびつ
板櫃 <校訓>
真理の探究
自主躍進

令和6年4月11日(木)発行
校長 栗原 博 巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～
<目指す生徒像>
①「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

令和6年度 板櫃中 1学期 着任式・始業式

3月22日に離任式があり、慣れ親しんだ先生方とお別れをしました。そして、4月8日(月)に新しく板櫃中に赴任された先生方の着任式がありました。これまでお世話になった先生方に感謝し、これから新しい先生方といっしょに、素晴らしい学校を創っていきましょう。着任式の後には、始業式がありました。さすが板櫃中学校の2・3年生です。着任式では大きな拍手で先生方を歓迎してくれました。また、始業式の担任発表でも明るく、元気な姿を見ることができました。とてもすばらしい始業式でした。赴任された先生方は新しい学校で緊張しています。大きな歓迎の拍手は先生方にとってとても嬉しいことだったに違いありません。板櫃中学校の生徒の優しさ、思いやりを感じた瞬間です。昨年度から言っていますが、「挨拶」「拍手」は思いやりの第一歩、優しさを感じる第一歩です。板櫃中学校で大切にしていきたいことの中にも「挨拶」があります。今年も、北九州市の中学校で「挨拶(あいさつ)北九州No.1」を目指していきましょう。

転出された先生方、長い間ありがとうございました！

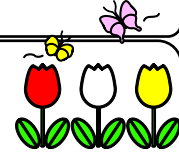
氏名	教科	異動先の学校等	学校の所在地



転入された先生方、よろしくお願いします！

氏名	教科	前任校等	学校の所在地

<生徒会長 歓迎の言葉>
はじめまして。板櫃中学校へようこそ。新しいスタートを赴任してきた先生方とともに、きれることを嬉しく思います。授業など日常生活の中で、先生方の知識や経験を吸収し、更に成長できるように頑張ります。もし、分からないことがあれば、私たちに何でも聞いてください。先生方と仲良くなりながら、素敵な思い出をたくさん作っていきましょう。これからどうぞよろしくお願いします。



<1学期 始業式 校長先生の話>
みなさんおはようございます。今日から令和6年度が始まります。今年度も『規律・感謝・情熱』の3つの学校生活スローガン達成を目指し、常に前進してください。3年生の皆さん、板櫃中学校の最高学年として学校の顔となる立場になりました。「板櫃中プライド」の合言葉を引き継ぎ、下級生の見本となる活躍を期待します。最高学年として、充実した学校生活を送り、来年3月には、全員が自分の将来、希望する仕事に就くために、自分の進路を自分でじっくり考え、選択できるよう、しっかり学んでください。そして、3年間高校へ通える力、社会で働ける力をつけてください。2年生は中堅学年という自覚と責任をもち、学校の様々な活動の中心となってください。皆さんの活躍で板櫃中の勢いが決まると思います。そして、明後日入学してくる1年生の先輩として、中学校生活が安心して楽しく、板櫃中学校に来てよかったと感じてくれるよう、よき先輩として手本となってください。板櫃中の生徒の皆さん、今年も、自分の可能性を信じ、努力してください。人間は、一人一人が大切な役割を与えられて生まれて生きています。そのため失敗しても自信を失わなくて、自分自身の可能性を信じ努力を続けてください。「何をやってもうまくいかない」仮にそういう時があったとしても、自分自身を信じる気持ちだけは失ってはいけません。自分の可能性を信じることができるのは自分自身です。勉強や部活動でうまくいなくても自分の可能性を信じあきらめずに努力することを皆さんにお願いします。最後に、いつも言っていますが、みなさんがどの中学校にも負けないという板櫃中学校の生徒としてのプライド、誇り、自信をもち、優しさと思いやりの気持ちを忘れず、笑顔で学校生活に取り組み、最後まであきらめず、全員の力を結束して、更に素晴らしい板櫃中学校を創り上げてくれることを願っています。10日には入学式があります。2・3年生のみなさんが体育館の準備や教室の飾り付けをしてください。ありがとうございます。これからも、板櫃中の先輩としての行動を期待します。最後に、この1年間、健康で怪我や事故のないように、学校生活を送ってください。以上で、先生の話が終わります。

○「出会い」とは

「出会い」は一般的に二つ以上のものや人が何らかの状況で接することを指す言葉で、特に人が新たな人と知り合う機会を意味します。これは友情、仕事やその他さまざまな状況に適用されます。

○「出逢い」とは

「出逢い」とは、特定の状況や場面で何かや誰かと初めて関わりをもつことを指す言葉です。新たな環境や人々、体験、情報、物事との接触が「出逢い」と表現されます。ある程度偶然性や運命的な要素を感じさせるような表現によく使用されます。

例えば、親友となる人物と初めて顔を合わせる瞬間、読んで人生が変わる書籍を手にした瞬間、それまで知らなかった新たな情報に接触した瞬間などが「出逢い」の例といえます。

この言葉は、新たな生活のスタートや新しい人間関係の始まりをポジティブに捉える意味合いをもちます。

○「出会い」と「出逢い」の違い

「出会い」は人や物事と初めて接触することを指します。普段の生活の中で偶然に経験するできごとや、意図的に場所やイベントに参加することで得られる新しい接触を表現します。

「出逢い」は「出会い」の別の表記ですが、「出会い」よりも感情的な対面や、運命的な出会いを強調する場面に使われます。偶然でありながらも、その出逢いが重大な影響を与える場合に使われます。

○「出会い」の例

*「卒業旅行での素敵な出会いが我が人生を変えた」。

*「この本との出会いは、私の視野を広げてくれた」。

*「最近、出会い系サービスを通じて新しい人々との出会いを楽しんでいる」。

「出会い」は、二人以上の人々が新たに関係を築く機会や、未知の物事と初めて接する機会を指す等、広範に使用されます。人間関係だけでなく、新しい情報や知識、物質に初めて触れる経験も「出会い」と表現できます。

○ 出逢いの例文

*この春、新たな出逢いが待っています。

*母との出逢いは彼に大きな影響を与えた。

*旅先での出逢いが人生を豊かにしてくれた。

出逢いの漢字は「逢」と「会」の二つがありますが、どちらも同じ「あう」を表しています。ただし、使い分ける場合、出逢いは感動的な出会いや、予想外の出会いなど、特別な出会いを強調したいときに用いられます。仕事や一般的な場面では「出会い」を使うのが一般的であり、親しみや深みを感じさせる文章、文学的な表現では「出逢い」が使われることが多いです。

○「出会い」と「出逢い」は基本的に同じ意味で、「何かや誰かと初めて接すること」を指します。しかし、「出逢い」という表記は、偶然ではなく運命的な出会いを強調する際や、感動的な出会いを表すときなど、比較的感情的な強めるシチュエーションで使用されることがあります。「出会い」は一般的な出会い全般を表す表現としてより広く使われています。

みなさんの4月の「であい」は「出会い」でしたか、「出逢い」でしたか。始業式の雰囲気を見ると、校長先生は「出逢い」ではなかったかなと感じました。



☆笑顔は一つの愛

『愛』という言葉には独特の響きがあります。それは、この言葉が崇高な感じがするものであり、大切なものというイメージがあるからでしょう。しかしまた、現代これほどまでに、誤解され、間違っ**て**使われている言葉は他にないかも知れません。日常使われている『愛』という言葉の中には、「ギブ・アンド・テイクの愛」などが含まれているからです。このような愛とは、相手をしばる心です。例えば、友達関係で、「こんなにあの人を気にしているのに、どうして分かってくれないの」というような思いは、本当の『愛』ではありません。見返りを求めているからです。また、「私が思っているのだから、応えてくれて当たり前だ」という思いも、にせものです。これは相手の心をしばっています。何度も何度もくり返しになりますが、『愛』とは「相手の立場になって思うこと、その上で人に優しく接すること、心の底から相手の幸せを願うこと」です。

ところで、一番簡単にできる『愛』は何か分かりますか。それは『笑顔』です。よく「苦虫を噛みつぶしたよう」という表現をすることがありますが、まるで苦いものかみしめているかのような顔で、いつも不機嫌そうな顔をしている人は、何となく近寄りたいたいものを感じます。『愛』とはほど遠い存在のように見えます。その反対に、いつもにこにこしている人は、何となく幸せそうに見えます。一緒にいるだけでも嬉しく感じます。何だか気分も良くなります。ずっと笑い続けている…というのはおかしいですが、折に触れていいさわやかな笑顔を作れる人は、それだけで『愛』を実践しているのです。

子どもがにこにこしながら遊びに熱中している様子を見ると、幸せそうに見えませんか。その時の笑顔を見るだけでも、心が温かくなりませんか。先生は、もっとも簡単で、誰にいても、いつでもできる『愛』の実践が『笑顔』だと思うのです。悩んでいる人が、さわやかな『笑顔』を見たらどう思うのでしょうか。「なんであんな笑顔なんだろう」と最初は思うかも知れませんが、だんだんと「自分もあんな風になりたい」と思うに違いないのです。その『笑顔』が仕事をするのです。『笑顔』が『愛』という名のさわやかな風となって、広がってゆくのです。

たとえ、自らが悲しみの渦中にあっても『愛』を投げかけることができます。努めて『笑顔』を作ることで、『愛』の実践をすることができるからです。たとえ自らが苦しみの中にあっても、やはり『愛』を投げかけることができます。こんな「苦しみの顔は見せられない」と相手の立場を思うことで、努めて『笑顔』を作り出すことができます。

このように『笑顔』は一つの『愛』なのです。お互いさわやかな『笑顔』で、3年間という中学校生活を過ごそうではありませんか。

